

第 1 回小金井市緑の基本計画策定委員会 会議録

日時：令和 2 年 6 月 3 0 日（火） 9：00～10：40

場所：小金井市役所本庁舎 3 階 第 1 会議室

1 議事日程

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 委員長、副委員長の互選
- 4 小金井市緑の基本計画について
- 5 課題と改定方針（案）について

2 配布資料

次第

座席表

- 資料 1－1 小金井市緑の基本計画の策定について
- 資料 1－2 小金井市みどりの基本計画目次と検討スケジュール（案）
- 資料 2 課題と計画の改定方針
- 参考資料 2－1 （小金井市緑の基本計画）現行計画の評価
- 参考資料 2－2 政策動向の把握
- 参考資料 2－3 令和元年度第 2 回小金井市緑地保全対策審議会 議事要旨
令和元年度小金井市みどりの実態調査報告書

3 出席者

(1) 委員

		氏 名	選出区分
1	委員長	福嶋 司	学識経験者
2	副委員長	椿 真智子	学識経験者
3	委員	小木曾 裕	学識経験者
4	委員	大澤 利之	農業従事者
5	委員	益田 智史	商業従事者
6	委員	串田 光弘	緑化団体
7	委員	笠原 謙次	緑化団体
8	委員	福嶋 隆	一般市民
9	委員	尾路 紀恵	一般市民
10	委員	鳥羽 浩子	一般市民

※ 欠席者なし

(2) 事務局

環境政策課長 平野 純也

環境政策課緑と公園係長 小林 勢

環境政策課主査 中込 甲斐

環境政策課緑と公園係主事 須田 裕士

4 議事要旨

(1) 委員長、副委員長の互選

委員長は福嶋司委員、副委員長は椿真智子委員とする。委員長、副委員長就任にあたり、以下の挨拶をいただいた。

- 福嶋委員長：過去に11年間、小金井市に居住経験があり、子どもたちは第一小学校に通った。大学では植生管理学を専門として、緑のあり方や管理について研究している。これまでの経験を今回の計画策定に役立てられれば嬉しい。計画検討にあたっては、緑地保全対策審議会とも連携を取っていきたい。多くの市では10年に1度、緑の基本計画を改訂しているが、どこも似通った計画になりがちである。現実的な小金井市らしさのある計画を目指していきたい。
- 椿副委員長：学芸大学に在籍し、日頃から小金井市にはお世話になっている。大学には長く在籍し、巡検と称して学生と市内を歩く機会も多いが、小金井について知らないことがまだまだたくさんあると感じている。ここ数年は、市民団体の方々と一緒に国分寺崖線の魅力発信に取り組んでいる。みどりの魅力や意義をより多くの人に再認識してもらえそうな活動ができればと考えている。

(2) 小金井市緑の基本計画について

資料1-1及び資料1-2について事務局（須田主事）より説明し、説明に対する意見はなかった。

(3) 課題と改定方針（案）について

資料2について事務局（委託事業者プレック研究所）より説明し、以下の意見があった。

- 笠原委員：現行計画の3つの基本方針では「活かす」という言葉が使われているが、改訂方針案では緑の活用に関する取り組みが見られないように読める。
 - 福嶋委員長：ご指摘のとおりであり、今後の要検討事項と言えるだろう。
 - 福嶋委員長：私からも意見を述べたい。みどりの実態調査報告書は、緑の量や市民意識に関する情報はよくまとまっているが、緑の質の問題については触れられていない。小金井のみどりは、大きなまとまりのあるものでは小金井公園と玉川上水、国分寺崖線、野川等が挙げられる。中くらいのものでは、公共緑地や大学等のみどり、さらに小さいものでは街路樹や保存樹木等があるだろう。それを区分せず一括りで評価するのはいかがなものか。実際には、屋敷林などの小規模なみどりは、市民にとって身近なものであり、重要な要素であると認識している。屋敷林の多くは民有地であるが、管理方針については市としての考え方も示すべきである。また、市民アンケート結果の活用、都との協調、近隣市との連携も重要と考える。都市化はある程度食い止められないと思うが、情報を整理し、みどりや生物多様性の重要性を市民に伝えていく必要があるだろう。外来植物の取扱い等も含め、緑の質について我々も考えていかなければならないし、市にも市としての考えを持って臨んでもらえたらと思う。
- その他、各委員より一言ずつコメントをいただいた。
- 串田委員：委員長の話には賛同する。緑の基本計画は、通常概念的な話が書かれると認

識している。基本計画に対応して実施計画が作られる場合、実施計画に各論が書かれることもあるが、現状小金井市には実施計画がない。緑の質の話は各論になると思うが、実施計画を作らない場合、どこで整理するのだろうか。

- 福嶋委員長：緑の質について、基本計画においてある程度整理しておくべきではないか。
- 笠原委員：定年後にボランティア活動を開始し、みどり剪定サークル、野川自然の会、生ごみを土に還す会に加入している。市内の公園については、小さな公園に大木が植えられているなど、植栽のあり方に疑問を抱くことがある。適材適所な植栽が必要であると考えている。
- 大澤委員：貫井南町で農家として野菜を生産しているほか、農協の直売所会長、農業委員会の委員長を務めている。資料説明の中で、農地が減少しているとあったが、失われた農地の多くは相続税の問題が大きい。こうした農地を残していくには、農業を存続しやすい環境・支援を整える必要がある。農家は屋敷林を持っている方も多く、すでに環境緑地制度を活用させていただいているが、より一層の支援をお願いしたい。
- 益田委員：けやき通り商店会で飲食店を経営しているほか、小金井市商工会の理事、けやき通り商店会会長を務めている。10年前は武蔵小金井駅北口の広大な農地を見て、商業振興の妨げになっていると感じていたが、数年前に商店会で地元住民向けに商業振興に関するアンケートをきっかけに考えが変わった。アンケートで商店会に期待する活動を聞いたところ、買い周りのやすさなどを想定していたが、子育て支援や介護福祉支援、気軽に集まれる居場所づくり等を望む意見が多く、商店会としては難しい課題を突き付けられた。このアンケートを機に方向転換をし、現在、介護福祉施設や保育園と協力してネットワークをつくり、街を盛り上げる活動もしている。みどりは地方に行けば山ほどあるが、小金井という都市において、人が入ってくればみどりは減る。みどりとの調和、暮らしとの調和を意識する必要があるのだろうと思う。各立場からみどりを守るメリットを考え、暮らしの中でみどりがどのように活躍するかを描くことができれば、自ずとみどりを守る意識が醸成されるのではないか。
- 小木曾委員：調布市、国分寺市にも居住経験があり、国分寺崖線には馴染みが深い。また、URに務めていた時代があり、小金井団地の整備に関わった経験がある。玉川上水や野川は小金井市の資産ではないが、大事にしていかなければならないと考えている。一方で、みどりの満足度を上げるには、より身近なみどりの質を上げていく必要があるだろう。みどりの質の問題は、難しい課題と思うが、検討していかなければならない。昨年度の緑地保全対策審議会でも発言したが、そもそも市民がみどりの基本計画を知らないことが大きな課題と認識している。例えば、小学生向けにわかりやすい計画書の概要版を作成するなど、まず計画の内容を知ってもらうことが重要である。また、「市民参加」ではなく、「市民協働」という発想で、市民の力を借りていくことが重要であると考えている。
- 福嶋隆委員：市としての考えを持つことは大切であるが、市民も意見を持ち、ボトムアップしていくことも重要であると考えている。アンケート結果の説明の中で、量には満足しているものの、質についてはより一層の向上が望まれているとの話があった。自身は栗山公園の管理に携わっているが、園内を掃除するとベンチの周辺にはいつも大量

の吸い殻が落ちている。市には緑のメンテナンスコストも意識してほしい。例えば、栗山公園のグラウンドは、排水性を考慮して整備された結果、碎石が多く使い勝手の悪い部分があった。これを今年の2月に整地、グリーンダスト舗装にしてもらったが、そのおかげで今度は降雨後に泥が流出するようになり、それはそれで管理が必要になった。もう一点、民有地の緑化について、自身は東町5丁目に住んでいるが、連雀通り沿いの1000坪以上あった敷地に20戸以上の戸建てが建設されるようである。今までは連雀通りから内に入ると、みどりの風が心地よかったが、開発により失われるのだろう。開発自体を止めることはできないが、例えば新築された住宅に生け垣を取り入れてもらうなどは考えられるのではないか。自身も市の助成金を活用して、ブロック塀の撤去、生け垣化をした。助成金額は大した額ではないが、広く普及することで安全性の確保と緑の確保につながるのではないか。

- 鳥羽委員：昨年からむさこぷらっと公園の花壇ボランティアをしている。活動の一環で三鷹市を視察したが、ボランティア育成、子どもたちへの環境教育に対して、非常に熱心に取り組んでいた。小さな子どもたちへの環境教育は重要と考える。むさこぷらっと公園は主に小学生以下の子どもが遊びに来るような、小さな公園である。花壇を管理している中で、子どもたちが花壇の花を抜いてしまったり、植替え前の花壇を砂場のように使ってしまった経験もあるが、そうして花壇に親しんでもらう機会はチャンスであると考えている。植物で遊べる公園を作ることで、子どもたちと一緒に花を育てる気持ちを共有したい。小金井市も三鷹市と同じように、ボランティアを育てる仕組みづくりを検討してほしい。
- 尾路委員：梶野公園で花壇ボランティアをしている。市内では、緑化をしたものの維持管理ができていないみどりをよく見かける。植えるものはサツキやツツジなど安いものになってしまっても仕方がないが、それをいかに大切にすることが重要であると思う。管理するコスト、植物を維持する人を大切にしてほしい。小金井市民は、みどりに対する情熱のある方が多いと思うが、実際にどのように関われば良いかわからない、プランター緑化をした際、土を捨てられないのが困るなどの課題が、活動への参加を阻んでいるように思う。市民目線で方策を考えることで、市民のやる気が継続できるような、持続可能な緑化をしていけたらと考えている。
- 福嶋委員長：計画書には、維持管理も含めた具体的な内容を盛り込んでいきたい。
- 椿副委員長：みどりは規模だけでなく、利用のされ方、管理形態も多種多様である。質については、個々人の価値観によって、何を良しとするのか様々な意見があるだろう。重要かつ難しい問題であると感じた。一つは、今あるものをどう活かしていくのか、という視点は重要であると思う。新しいみどりを創出すること以上に、今あるみどりを今後につなげていくことは重要である。また、ここにいる人たちは関心が高いが、みどりの実態をより多くの市民に知ってもらいたい。みどりの実態調査報告書も、報告書のままではもったいない。小金井市民は意識の高い方が多いため、市民団体の活動紹介等、情報発信の機会を作って、潜在的な協力者を巻き込んでいけたらと思う。

以上